

中学校
1年/技・家

情報モラル（ネット上の犯罪行為）

～デジタル教材を活用し、実践的な態度を養う～

実践者 塩竈市立第一中学校 黒田 健

1 学習の概要

単元名

情報とコンピュータ「情報モラルとコンピュータの利用」

単元の目標

ネット上で行われている各種詐欺の内容や出会い系サイトの危険性、誹謗中傷などの犯罪性について伝え、それらの対策を考えさせる。

本時の学習

学習活動

- 1 ネット上の犯罪について知っていることを発表する。
- 2 デジタル教材の場面2-10までを視聴する。
- 3 中学生が関わった例を調べる。
- 4 防止法を考えた後、グループで意見交換する。
- 5 場面2-11を視聴しまとめる。
- 6 場面2-16までを視聴する。
- 7 防止法と請求が来たときの対応を考える。
- 8 場面2-17を視聴し、不足した内容をまとめる。
- 9 感想を記入する。

指導上の留意点

- 電話を使った犯罪と区別させる。
- 故意に行われる犯罪について扱うことを伝える。
- 何をどのようにだまし取られるのか、明確にする。
- 同年代の事件例を調べ、身近に起きていることを認識させる。
- 生徒自らが考える時間、意見交換できる場の設定を行う。
- 請求を無視できるかどうかの判断基準を明確にする。
- アダルト系、出会い系サイトが他人に相談しづらいことを狙った犯罪であると助言する。

本時活用機器・コンテンツ

- ・教師用PC、生徒用PC
- ・みやぎの情報モラル総合サイトオリジナルデジタル教材
(<http://midori.edu-c.pref.miyagi.jp/moral/>)

補助資料等

- ・デジタル教材指導案、ワークシート類

2 学習のポイント

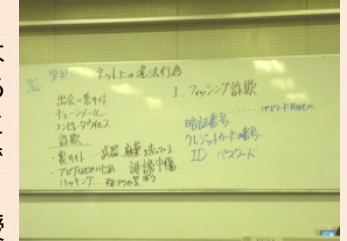
・生活の中で生きる授業構成

情報モラルの授業でも、犯罪系の内容は生徒が受け身になりやすい授業の1つである。もちろん、基本的な内容をしっかりと教えることも重要だが、それが生活の中で実践できるようにすることも大切である。そしてそれには問題を解決する手だてを授業で身につけることが必要である。

そこで、授業の中で事例を調べたり、対応を自ら考え、また意見を交換する場面を設定することで、将来生活の中で実際に問題が起きたときに発揮される実践力の育成を考えた。

・動画を積極的に加工し活用

フラッシュ動画の一場面を再度見せる必要を感じる場面がある。今回は動画中の「規約」のボタンがとても小さいことを再度確認したかったためにプリントスクリーンを使用し、生徒に提示した。プレゼンテーションソフト等で事前に準備しておくことでスムーズに授業が進み、生徒への定着を図ることができると思う。



3 学習のまとめ

・デジタル教材の活用

クレジットカード等を持たず、またインターネットの利用経験の浅い生徒にネット犯罪の理解は難しい。デジタル教材はそんな生徒が関心を持って情報モラルの授業に臨み、内容に触れることができる教材である。

教材を使用すると補足説明のために再度映像を見せたいが、これには何らかの手だてが必要である。しかし、授業で使うことを条件に積極的に手をつけていくことで対応でき、問題解決的な学習への発展や実際の生活で実践できる力を身に付けることにつながることを確認できた。

